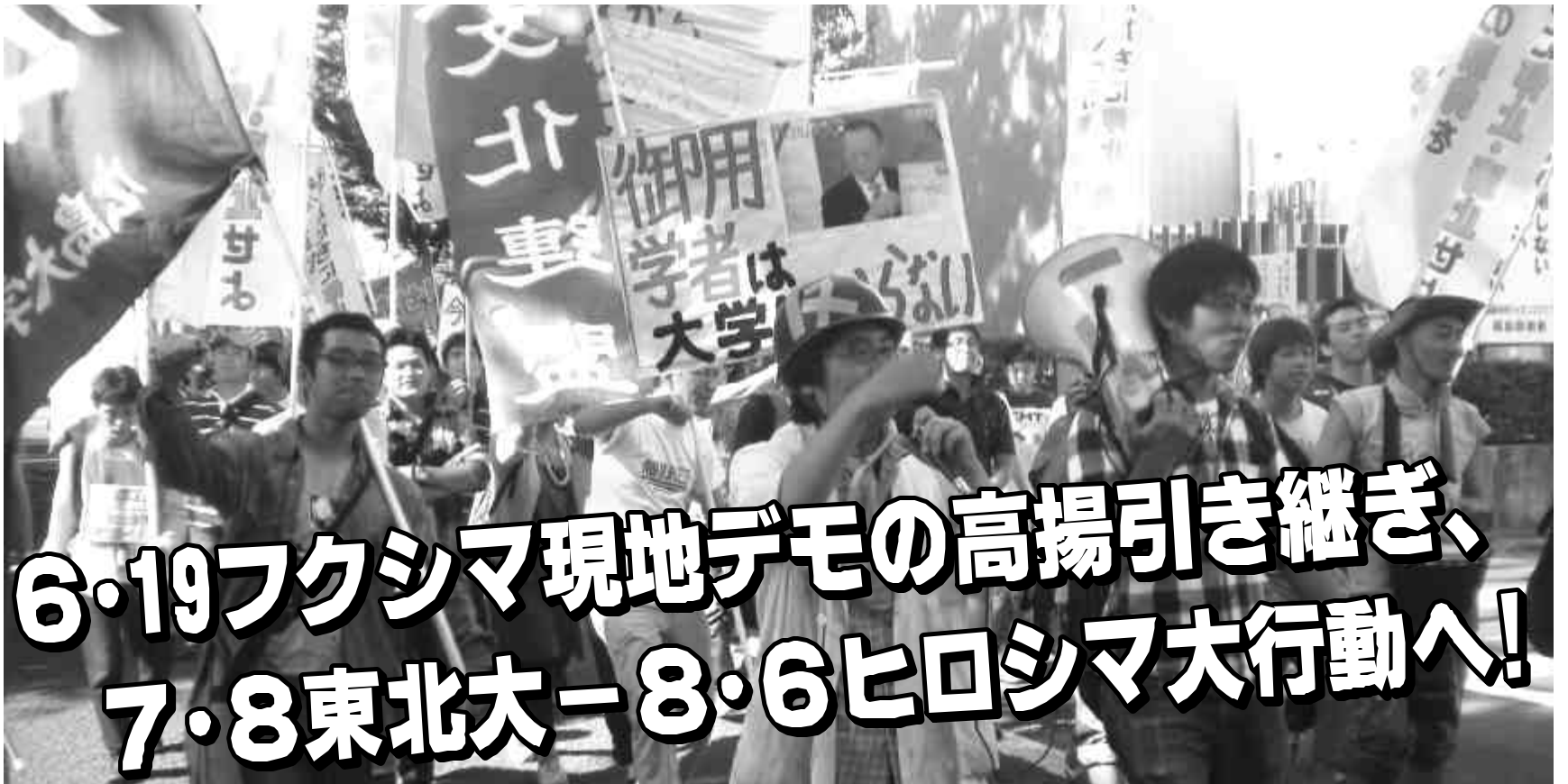


8・6ヒロシマへ!

2011年6月22日
No 1

全学連(織田陽介委員長) 書記局通信

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>



【1】フクシマ現地で1510人集会&デモが大成功!

6月19日、「怒りのフクシマ大行動」が福島市内において1510人の大結集で成功した。現地を先頭に、北海道から沖縄まで全国から怒れる労働者・農民・学生が結集した。「3・11」から3ヶ月、6・5国鉄大集会、6・11反原発100万人デモに続いて、ついに被災地から「反原発×反失業」の怒りが噴き出し始めたことが決定的だ。

①第一に、集会とデモが現地の怒りと結びついて圧倒的に高揚したことだ。集会におけるすべての発言が、ものすごい獲得力を持っていた。そして、デモにおいて沿道から大学生・高校生を中心に多くの飛び入りが生まれた。市中心部を席卷するデモ隊は、福島市民から歓呼の声で迎えられた。「放射能被曝」という厳しい現実と重さを吹き飛ばす、自己解放的な闘いを実現した。

②第二に、原発事故に対する深く激しい怒りはこれからますます拡大しようとしている。一つに、日帝・菅政権があくまで原発推進政策に固執していることだ。6月18日、原子力安全・保安院は「全電力会社の原発安全対策は適正に実施されている」との検査結果を発表し、それを受けただちに海江田経産相は原発立地地域に対して、現在停止中の原発の再稼働を求めた。このままいけば来春には国内の全原発が定期検査入りで停止してしまうことに恐怖した菅政権は、超アリのバイ的かつデタラメな「安全確認」によって原発を再

開させようとしているのだ。しかし、こんな策動を絶対に許さない現地の怒りが沸騰している。二つに、「被曝線量基準20mSvシーベルト」問題に象徴される福島県民見殺し政策は何も解決しておらず、これからたまりにたまった怒りのマグマが爆発していこうとしている。三つに、6月17日に発表された福島原発事故「第三次工程表」における「来年1月までの収束」メドは、完全に破産しているということだ。敷地内に11万トン以上もたまった高濃度汚染水対策として17日から始まった「汚染水浄化システム」は、18日にはセシウム吸着装置が原因で、21日には除染装置が原因で運転を停止



した。今後さらに矛盾は爆発し、「フクシマの怒り」はこれと真っ向から対決する決定的な位置を持っている。

③第三に、われわれが6・5国鉄大集会と6・11反原発100万人デモの勝利を引き継ぎ、断固フクシマ現地に乗り込んで闘いを爆発させたことが重要だ。掲げるべきスローガンは、「国家・資本による殺人的犯罪弾劾！」であり、「労働運動・学生運動の力で原発を止め社会を変えよう！」だ。その核心に、新自由主義攻撃をうち破る階級的団結の復権がある。その地平の象徴として、福教組とJR労働者、郵政の青年労働者の発言があり、現地自治体労働者の参加があった。

④第四に、福島大学学生運動の再興をかちとっていく展望を切り開いたことだ。全学連現地行動隊の奮闘の上に、闘う福島大生が多数集会・デモに参加した。1週間足らずで、100筆をこえる反原発署名がキャンパスで集まっている。原発事故に対して無為無策どころか学生の主体性を押さえつ

けようとする福大当局に対する怒りはキャンパスに充満している。福島大学における反原発の福大生の決起が、300万学生の心を大きく揺さぶる。全学連運動のいま一段の飛躍をかけて、全力で福大生の組織化に取り組もう。

⑤総じて、次なる行動方針としての「7・8 東北大全国集会」と「8・6 ヒロシマ大行動」が鮮明にうち出された。「7・8→8・6」方針こそ、一方での「復興」イデオロギーを掲げた新たな収奪攻撃(増税、首切り・賃下げ、社会保障解体、生活破壊)との対決であり、他方での反戦・反核・反原発を掲げての、帝国主義侵略戦争と全面的に対決する闘いだ(それは徹底的に沖縄連帯闘争としてもある)。全国の学友のみなさん、国鉄闘争→100万人反原発デモ→フクシマ現地と連続的にうち抜いてきた勝利の地平を引き継ぎ、次は新自由主義大学粉碎の被災地現地(仙台)からの闘い、そして世界を揺るがす反戦・反核ヒロシマ大闘争へと攻めのぼろう！

【2】フクシマ現地を先頭にした集会発言(抜粋)

◆全学連・福島現地行動隊 古郡陸(東北大学)

私は福島現地行動隊として、13日から主に福島大学で宣伝活動を行ってきました。今日は、福島大生も集会に参加しています！福島大学での活動で感じたのは、本当に福大生の怒りです。約5日間で署名が100筆以上集まりました。福島だからこそ声をあげなきゃいけない、学生だからこそ声を上げなきゃいけない、そう学生たちは言っています。



福島第一原発事故を受けてもなお、政府・東電・大学は原発政策を維持しようとしています。住民を守らない、学生を守らない、だけど原発は守る。この大学は一体なんなんだ！結局大学も「原子力ムラ」の一角です。ならば、学生はいかに行動すべきかはハッキリしています。私たち学生が立ち上がって原発を止めるということではないでしょうか。全学連は原発廃止まで最先頭で闘います。大学を反戦・反核・反原発の砦にしていきたいと思います！

◆福島大学1年生

現地の学生から発言させていただきます。私は新潟出身で、2007年に新潟県中越沖地震がありました。その時に、新潟県の柏崎刈羽原発は地震で被害を受け、すべての原子炉が活動停止しました。火災も起こり、何基かは活動を再開したものの、3号機と4号機は3月11日の地震の前もずっと停止していました。地震で原発が止まるという事態が数年前にも起こっているにもかかわらず、今回の震災で福島第一原発は大変な事故を引き起こしました。政府・国が放射能・原発の危険性を本気で考えていたとしたら、このような事態はまず起こらなかったはずです。

そして今、政府は放射能を1年間に浴びる被曝量基準値

を引き上げています。それもおかしなことです。例えば、毒ガスがまき散らされた時、毒ガスを浴びていい量を超える人はまずいません。内部被曝による人体への影響や因果関係がはっきりしていないなら、よく分からない未知の物質にもっと予防線を張るべきです。政府・メディアも大学教授もウソばかり。今の世界デタラメですよ。一介の学生として、今の現状はおかしいと思っています。

新潟でも、巻町に原発をつくらうという計画が過去にありまして、町長が誘致を積極的に推進しました。地元自治体はそれに反対し、住民投票を行いました(1996年)。反対派が圧倒的多数で勝利しました。この過程で町長はリコール＝退職させられ、巻原発の計画は中止になりました。私たちが発言すれば変わります。原発はなくせるはずですよ。フクシマ現地からみんなで立ち上がっていきましょう！



◆清野和彦さん(元福島県教職員組合委員長)



各地からお集まりいただきまして、ありがとうございます。この場所は今日12時の計測で、1.29^ミシーベルトとなっております。通常は1.4^ミシーベルトくらいです。これがどのくらい問題なのかというと、「放射線管理区域」という定めがありまして、3ヶ月間に1.3^ミシーベルトを超えるおそれのあるところは厳重に管理するように、と定められてあります。つまり、許可なき立ち入りをしてはならないということです。では、ここに来る時に誰か止めてくれましたか？ 誰も止めてくれません。福島はそういう状況です。いったい誰がこの事態に対して責任をとるのか、ということが最大の問題です。

福島原発を運営する東京電力はもちろん、もっと大きな問題は「国策」として原子力発電所を全国につくってきたことです。この責任はどこまでも追及していかなければなりません。同時に原発推進賛同してきた多くの人々がいます。財界、学者、マスコミ、数え上げればキリがありません。しかし、今その責任をとらないばかりか、事故について「想定外」という言葉を使っております。絶対に許せません！

一番言いたいのはこれからのことです。私は年だから「もう大丈夫だ」と我慢していますが、問題は子どもたちです。子どもたちの未来を守らなければなりません。ぜひ全国で力を出し切っていただきたいと思います。この状況の中で最も力を出し切ってほしいのは、労働運動、労働者階級です。また、それに続く若い学生のみなさんです。私はまず始めに福島県から原子力発電所をなくすために力を尽くしたいと思います。そしてそれが全国・全世界に向けての出発点になることを願っています。

最後に、私の年代が大きな責任を負わなければならないと思っております。反原発・脱原発を唱えながら力及ばず今日を迎えたことは慙愧の念でいっぱいです。残された年、私も脱原発へ力を尽くします。みなさま、全国でよろしくお願いします。



◆角田政志さん(福島県教職員組合書記長)



学校現場からの現状と訴えをさせていただきます。原発事故以来、教育現場は非常に大きな困難と危機的状況が現在も続いております。子どもたちにとって大変な状況です。原発事故で、小中学生だけでも1万5000人以上が避難を強いられました。800人を超える教職員も避難を余儀なくされました。県外には7000人を超える子どもたちが今も避難しています。約60校がいまだに学校が再開できず、臨時休校または学校の臨時移転という状況です。

教職員もまた被災者です。しかし、県教育委員会の不当な勤務配置命令で家族がバラバラになったり、遠距離通勤を余儀なくされたり、学校に行けば担任も持てず、と、気を使う毎日が続いています。家庭、生活、勤務労働条件がめっちゃめっちゃになった先生たちがたくさんいます。私たち県教組は、こういう人たちを何とか元に戻すということで交渉をずっと続けています。

もう一つ大変な事態は、来年福島県で先生の採用をしないということです。子どもたちが多く県外に行ったので、先生が余っている、と。講師の人たちも、来年は働き口が非常に厳しくなるという通知まで出しています。先生が余っているなんてまったくのウソです。足りないです。雇用の機会を確保するために、私たちはこれからも頑張っていきます。そして、震災から3ヶ月経った今、避難をしている子どもたちの心のケアが非常に大変です。子どもたちが避難している学校の約3割で、心のケアが必要な子がいる状況です。

原発事故で避難した人もいれば、逆に親の仕事や家庭の事情で避難できない子どもたちもたくさんいます。私たちは、そういった避難できない子どもに不要な放射能を浴びさせないためにどうしたらいいかと、一生懸命考えながら発信してきました。文科省は4月19日、年間20^ミシーベルトの暫定基準を出し、校内での活動制限値、3.8マイクロシーベルト／時を出したとき、非常に危険性を感じました。「この基準を下回ればもう安全だ」という意識が何より怖かった。これに対し、「子どもたちを放射線から守ろう」という声がたくさんあがりました。市教委や自治体にも働きかけ、校庭の土を削り、教室にエアコンや扇風機を入れ、プールの使用を中止し、さまざまな動きが出てきています。しかし、国は削った土をどこにも持っていわずにまだ学校の中に残しています。下からの声が多くを動かしているにもかかわらず、国や県、東電はまったく具体的なことを率先してやろうとしません。すべてが後追いです。文科省は5月27日、当面の線量を年間1^ミシーベルト以下に努力するとしました。しかし、これも学校にいるときだけです。一日の3分の2、子どもたちは家庭にいます。家庭の方が放射線は高いんです。全生活で1^ミシーベルト以下にするために、



縦割り行政をやめ、すべての通学路、家庭、公園、屋根、側溝の除染をする、考えられるあらゆることを早急にやるよう私たちは要求を続けています。これだけ大変な事故を起こした東電・国は当然やるべきです。そして、子どもの健康被害については、国・東電が最後まで保障しながら、必ず一人残らず健康診断を継続するべきです。私たちの闘いは、私たちだけではできません。多くの人と連携しながら取り組みを進めていきます。7月31日には「放射能のないフクシマを返せ!」県民集会を開催します。ともに頑張りましょう!

◆鈴木光一郎さん

(酪農家、ネットワーク「ゆい」福島)

福島(本宮市)で酪農をやっている鈴木と申します。全国から福島現地に集まるという、勇気ある行動をとってくださって誠にありがとうございます。そして首都・東京で、全国で、フクシマの現状、つらい立場と真実をみなさんに明らかにしてくださったことを本当にありがたく思います。

いま福島は原子力災害の真っ只中にあります。3月11日以降、福島県民は本当につらいつらい無念の毎日です。私たちは原発の恐怖を、身をもって体験しています。牛乳は2〜3ヶ月要して、3ヶ月でようやく出荷制限が解除になったところもあります。私も震災から1ヶ月半、牛乳を牧草地に捨てました。まったく無念でありました。そして今なお、30キロ以上離れた計画的避難地域の飯舘村の方々は、全財産の牛を売り払って避難しなきゃならない、という中に



集会で発言する大内さん(左)と鈴木さん(右)

あります。まったく無念の極みです。すべて原発のせいです。

われわれの仲間は、一週間前に原発を怨みつつ旅立ってしまいました(※6月9日、相馬市の54歳の酪農家の男性が自殺)。悔しいです。まったく悔しい!しかし、私たち農民は決して負けません。風評被害で低価格の農産物を売ろうとも、どんな困難に直面しようとも、必ずや復興に向かって歩みを開始します。その援助をよろしくお願いします。労働者の力、農民の力、すべての人々の支援によって必ずこの福島から復興に向かって頑張っていきます。みなさん、よろしくお願いします。

◆大内さん(果樹農家)

今回の震災で多くの方々から野菜、機械の燃料、ガイガーカウンターと、あらゆるものを提供していただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

6月4日、政府は重要なことを公表しました。原発の水素爆発直後(3月15日)に、福島市内のある地点の雑草を調査したところ、1平方メートルあたり100万ベクレルを超える高い濃度の放射性ヨウ素が検出されたという事実です。この時期、福島のライフラインは完全に遮断され、子どもたちは親と一緒に水の配給に並んでいたのです。何も知らされない子どもたちは、公園を走り回り、無防備で外に出ていました。この事実を3ヶ月近く後になって「すみませんでした」と記者会見している。犯罪者が堂々と記者会見しているんですよ。あと数年先に子どもたちに一体何が起こるか? あえて言うまでもないでしょう。「安全だ安全だ」と言っている陰で、恐ろしいことが進行していたんです。

農産物は野菜を中心に多くが出荷停止に追い込まれました。6月からは、福島の田の上から基準値を超える放射線物質が検出され、出荷停止になっています。また今後、稲わら、落ち葉、堆肥、これまで有機肥料として利用されてきた物が全部核汚染物質として利用できなくなるんです。地域的な連関性が完全に断たれてしまっている。そうした中で、自殺した農民もいます。機械を全部処分し、廃業した農民もいました。新たな土地を求めて、長野、北海道、長崎と旅だった農民もいます。「じゃあ自分はどうするのか」と問いかけたとき、私はここに残って営農を続け、この大地を甦らせる闘いをやっていきます。どんなに長くかかろうとも、この闘いを貫いていきます。

こういう現実を生み出した原発を完全に廃炉に追い込む闘い、そして東電・政府の責任を追及する闘いを全国のみなさんの力をお借りして続けていかなければなりません。そして私は、自分たちの力でこれをなんとかのりこえてみせようという思いを強くしております。今後ともよろしくお願いします。

◆国鉄千葉動力車労働組合・田中康宏委員長



はじめに、福島のみなさんに心から御礼の言葉を述べたいと思います。6月5日に国鉄1047名解雇撤回、原発・震災解雇と闘う労働者集会を呼びかけたところ、福島や宮城からたくさんの同志のみなさんがかけつけてくださり、本当にありがとうございました。

困難な状況の中で、未来と希望を失わずに闘う福島のみなさんに心から敬意を表し、私たちもこの闘いに最後まで連帯して闘う決意です。

今起きていることは、生き抜くための、人間が人間として生きることができる社会をつくるための戦争です。絶対に負けてはならない戦争です。私はすべてのことに怒っています。この国の政府は一体なんなんですか！子どもたち、何十万何百万という人びとの生活と命を奪っていて、東京電力や政府だけを守ろうとしている。自分を守るために命を奪う。こんな連中は、国民が一人もいない無人島にでも追放して、誰もいない国でも「統治」すればいいんです。あとは僕らが引き受けてやらなければならない。

だけど、原発事故が起きなければ、それでこの世の中はよかったのか。違ったと思います。大震災が起きる前から、非正規だワーキングプアだ、地方の切り捨てだ、と労働者は生きることができない、こんな社会だったんじゃないか。すべてを変えなければならない。僕らに何ができるのか、この状況で何ができるのか。できることはたくさんあります。絶対にあきらめないこと。絶対にこの社会を変えるまで闘いをやめないこと。福島のみなさんの叫びを絶対に孤立させないこと。全国で必死になって声をあげること。

それともう一つ、私は労働組合運動に携わる者として、心の底からお詫びしなければなりません。労働組合のこの体たらくです。この現実がなかったら原発事故は起きなかった。僕らは、どんなに小さな闘いでも職場から、原発推進の労働組合ではなくて、人間が人間として団結して生きていける、そういう社会をつくりあげる労働組合をつくり直さなければいけない。そのことが核心だと思っています。私たちも絶対に全国から声をあげます。

◆中島健さん

(被爆二世、「8・6ヒロシマ大行動」呼びかけ人)



ヒロシマの被爆者・被爆二世、そして8・6大行動を代表して発言します。この原発事故は「想定外」でもなんでもありません。「トイレなきマンション」あるいは「暴走する機械」、これが原発です。そして、われわれが数十年間訴えてきたように、原発は何よりも「プルトニウム製造工場」です。プルトニウムとは、広島に続いて1945年8月9日に長崎に落とされた原爆の材料です。自民党政府は戦

後一環して、核武装を狙ってきました。

すでに、六ヶ所村から取り出されたプルトニウムを高速増殖炉「もんじゅ」で精製する計画があり、そこでは98%の高純度プルトニウムが取り出せます。98%というのは、わずか1キロで原爆にできるものです。それを保持するために、日本政府は「核の平和利用」などと大デマで原発を推進してきました。何が平和利用ですか！何が安全ですか！何がクリーンですか！何が安全ですか！すべて大ウソでした。

私たちヒロシマの被爆者は、その年に12万が死んだといわれる8月6日の焦土から立ち上がりました。しかし、直後に登場した占領軍・GHQは、ヒロシマの被爆者が原爆について語ることを「プレスコード」で占領軍目的違反として逮捕し、投獄しました。こうして、原爆が非人間的な兵器であること、核が非人間的なものであることを世界に知らせることを妨害しました。そして、あろうことか45年9月には、マッカーサーの子分であるファーレル准将が「原爆放射能の後障害はありえない。すでに、広島・長崎では原爆症で死ぬべきものは死んでしまい、現在において、放射能のために苦しんでいるものは皆無だ」と言い放ったんです。

これは今のフクシマと同じです。菅政権や東電は何と言っていますか？「直ちに人体に影響することはない」。何ですか、これは！チェルノブイリで25年後に起こっている事態というのは、何十万という人たちが病気になっているわけです。ガンだとか白血病だとかと言われたいます。ヒロシマでも5～10年、1991年のイラク戦争で劣化ウラン弾が使われてから5～10年して猛烈な被害が出ました。

いまフクシマで、被曝した被災者の調査をされると言われていますが、ヒロシマでも戦後、米軍と一緒に物理学者や医者が来て、あらゆる資料を集めてアメリカに送りました。それは核開発のためだったんです。ヒロシマの被爆者はモルモットにされました。フクシマのみなさん、モルモットになることを拒否して自分の力で原発を阻止しましょう。

われわれが呼びかけている「ヒロシマ・フクシマからの即時に全原発を停止する1000万署名」を推し進め、ぜひ8・6ヒロシマに大結集してください。今年の8・6は、戦後の歴史を塗り替える闘いとして革命的大爆発をかちとります。アメリカから「反戦の母」シンディ・シーハンさんと呼んで、原発を必要とする資本主義社会、この腐りきった社会を打倒する、あの戦後の苦しさを二度と味わない歴史をこれから切り開くために、ともに闘いましょう！



【3】新自由主義大学粉碎！ 反戦・反核・反原発！

7月8日は仙台へ、8月6日はヒロシマへ！

(0) 当面する重要な闘争スケジュール

- *7・2 首都圏学生反原発講演会(講師：小出五郎さん)
- *7・8 東北大全国集会(川内北キャンパス、正午に集合)
- *7・10 反戦反核東京集会(中野ゼロ小ホール)
- *7・15 京大キャンパス集会
- *7・17 いわき現地集会(主催：動労水戸)
- *8・6 ヒロシマ大行動
- *9月全学連大会

(1) 8・6 ヒロシマ大行動

◆世界に轟くヒロシマ大行動(世界大会)まで残るところ一月半、全国学友はすべての組織活動(組織戦)を「ヒロシマ闘争の大爆発」から逆規定し、すべての力を注ぎ込んで成功させよう。

- ①ヒロシマ闘争の獲得目標は一つに、「3・11情勢」(大恐慌—大失業—原発事故)のもとで、全世界の労働者人民の圧倒的な注目を集めて行われる。昨年までともまったく位置づけが違う。それは何よりも、反原発運動を反戦反核闘争と結合し発展させる闘いだ。戦後連綿として安保—沖縄—広島闘争を闘い抜いてきた日本の労働者・学生の本骨頂を示す闘いとして爆発させよう。
- ②二つに、原発と核兵器と米軍基地、「敵は一つ」であり「怒りも一つ」であり、帝国主義および新自由主義攻撃と真っ

向から対決する闘いだ。

- ③三つに、「反戦の母」シンディー・シーハンさんを迎えて行う国際連帯闘争であり、「ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを繰り返すな！」を掲げ、原発廃止に向かって進撃するイタリアやドイツの労働者階級と一体で行う世界大会だ。
- ④四つに、4月新歓以降の(2011年前半期における)全学連運動の集約点であり、9月全学連大会の歴史的成功に向かっての総決起集会だ。
- ⑤五つに、8・6ヒロシマ闘争の主人公は広島大生だ。全国の力を広大に集中し、「広大学生運動ここにあり！」の大結集を実現しよう。

(2) 残る一ヶ月半の組織政策について

*闘争スケジュール

<5日>「すべての原発の即時停止・廃炉を求める全国連絡会」結成集会

<6日>早朝の首相弾劾デモから一連の集会・デモ

<7日>全国学生総決起集会

(10時～、広島市南区文化センター)

*反原発の全国学生署名を、ヒロシマに向けて10000筆集めよう。クラス、寮、サークルへの取り組みをよりいっそう強めよう。

以上。

